

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】		科目の教育目標
		社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。	(1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。	(2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。	(3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。	(1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。	(2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。	法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ幅広く学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。							
一般教養科目群														人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「もの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。	
	歴史と文化									○				・人間の営みが創造してきた文化や社会事象とその過程・現れ方などを学び、現代社会におけるそれらの意義を考える。 ・歴史を学び、これまでに形成されてきた文化や人間の有り様の表現、その広がりや学び、その意味について考え、探求する。 ・人文科学分野(歴史学、文学、言語学、考古学、地理学、文化人類学、芸術など)を中心に社会科学分野(経済学、社会学など)への視野を広げる。	
	人間と生命									○				・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根源的な問題を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。	
	生活と社会		◎	○						○			◎	・生命の仕組みを理解し、現代社会を取り巻くさまざまな諸課題について考える。 ・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野(法学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ視野を広げる。	
	自然と技術										○				・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代でもあり、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につけることを目標とする。 ・これまでの自然科学のみならず工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。
グローバル化教育科目群	グローバル化教育科目	○		○										国際文化やグローバルスタンダードの理解を通して、実社会におけるグローバル化社会に対応した研究・開発・業務などの展開力を学ぶ。	
イノベーション教育科目群	イノベーション教育科目									○	○			さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。	
基礎基盤教育科目群														大学での専門分野を学ぶ前提となる数学・理科などの基礎学力を得ること、さらには自立的学習能力や心身健康の自己管理能力など、大学生としての基礎となる能力を修得する。	
	ウェルネス総合演習									○	○			健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにしながら演習、実習により総合的に学び、考える。	
汎用的技能教育科目群														学術的な手法としてのアカデミック・スキルを理解し、さまざまな知見を応用的、創造的に発揮するための論理的思考、倫理モラル、プレゼンテーションなどについて学ぶ。	
	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～									○	○	○		専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。	
	情報科学									○	○			情報の取り扱いやその倫理などの基本を学ぶ。PC、計算ソフトの使い方から始まって、レポート作成法、PCを用いたプレゼンテーションへの対応やインターネットの利用、そのモラルを学ぶ。	
地域科学教育科目群	地域科学教育科目	○	○						○	○			地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指して、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。		

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習経験と創造的思慮力】			科目の教育目標
		社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。	(1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。	(2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。	(3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。	(1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。	(2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。	法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ幅広く学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。								
外国語教育科目群															英語をはじめとするドイツ語、フランス語、中国語の学修を通じ、語学力や外国語を通して文化理解力の獲得を目指す。	
	英語					◎									基礎英語は、大学で学修する上で基礎となる基礎力の確認と習得を目指す。主題別英語は主題に応じた内容の英語に関して、自主的能動的に学修することを目指す。発信型英語は、授業に積極的に参加し、英語の運用能力を高め英語による発信力を身につけることを目指す。	
	英語以外の外国語科目						◎								初修の外国語(「入門」と「初級」)について、基礎力と自ら学んでゆく発展力を学ぶ。	
学部共通科目	総合科学入門講座	○	○	○				○	○			○			<ul style="list-style-type: none"> 日本語で論理的文章を書く能力の基礎を身につける。 情報リテラシーを身につける。 総合科学部で行っている幅広い研究の一端を知る。 留学その他の学習プログラムについて理解する。 	
	科学論	◎	○		○			○							<ul style="list-style-type: none"> 文化・社会と自然との関わりについての理解 専門的知識を体系的に理解できる能力の育成 論理的思考力の養成 日本語の論理的文章を理解できる能力の養成 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成 情報リテラシーの養成 豊かな人間性の涵養 高い倫理観の涵養 自分で問題を発見しようとする態度の養成 	
	情報処理基礎論						○								現代の情報化社会を生きていく上で、さまざまなデータを分析したり、ソフトウェアを扱ったりする機会はずっと増えている。諸君がどの専門研究分野に進むにせよ、方法や程度は違っても情報処理の重要性は変わることがない。客観的なデータに基づく検証は、科学における認識の基礎である。また、諸君が卒業後に専門的職業人として活躍するのは、情報処理を避けて通れない。定型的な日常業務はもちろんだ、重要な意思決定シーンでデータに基づいた的確な判断を求められることは多いだろう。総合科学部では、こうした情報リテラシーをステップごとに身につけるため、体系的なカリキュラムを提供している。学部共通科目「情報処理基礎論」は、そのプラットフォームと位置づけられる科目である。この授業では講義と実習を通じて、統計学に関する基礎的な知識を学び、データ分析のための実践的な技能を身につけることができる。	
	総合科学の基礎A											○			現代日本語の基本的なしくみ(構造)とその適切な運用について理解することを到達目標とする。日本語を母語とする者としての最低限必要な知識(音声・文法・語彙など)とその具体的な運用を実践的に学び、高めていく。	
	総合科学の基礎B											○			文化とは何かを認識し、文化事象を分析する様々なアプローチについてことについて学ぶ。さらに文化の表現の諸相にも触れることによって、文化を研究するための基礎能力を獲得する。	
	総合科学の基礎C											○			人文科学(哲学)に関わる幅広い知識の理解を目標とする。日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。	
	総合科学の基礎D												○		スポーツ健康科学における各領域の研究課題について理解する。	
	総合科学の基礎E											○			1. 心理学に関する基礎的な学術的知識を修得している。 2. 地域住民の健康増進との関連において、心理学の基礎的な学術的知識を修得している。	
	総合科学の基礎F	◎	○		○							○	◎		1. 公共政策の理念と制度体系を説明できる。 2. 公共政策学の現代的実態と課題を説明できる。	

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】		科目の教育目標
		社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域の課題を的確に理解することができる。	(1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。	(2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。	(3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。	(1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。	(2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。	法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ幅広く学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。							
	総合科学の基礎G	◎	○		○						◎		ミクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項を厳密に把握し理解する。		
	総合科学の基礎H	◎	○		○						◎		高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人たちに対して、社会的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで起こっている社会現象が、どのようなくみでなっているのか、それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけることを目標とする。		
	総合科学の基礎J	◎	○		◎		○				◎		現代社会における人、企業、物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める。		
	Academic English I					◎							English for Global Purposesをテーマとして、日本文化及び日本時事を扱う英語の文章を学習する中で、高等学校で学んできた英語のルール(英文法・句型の基本など)と単語熟語力を再確認し、英語を読む力と多少早いスピードで聴く力を定着させる。また、英語で「日本」を考え、理解し、既存の英語力で発信できるようにする。		
	Academic English II					◎							(1)英語で行われる大学の授業に必要な英語の基礎技能を習得する。 (2)英語の資料を読み、基本的なレベルの英語のレポートを書き、英語でプレゼンテーションができる。		
	Extensive Reading					◎							e-ラーニングを利用した、英語多読及び語彙構築プログラムでの学習を通じて、4000語レベルまでの語彙力・読読力を到達目標とする。継続的自律学習で英語力の維持及び向上をはかる。		
	キャリアプラン入門	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎		大学の現実と課題を各自が理解し、大学における真摯な学び(広い教養と専門的力の養成)の重要性を自覚し、今後4年間の学習計画を立てることによって、卒業後も自律・自立して学習できる姿勢を身につける。		
	課題発見ゼミナール	○	○		○		◎				◎		1. 文献・資料・データ等の収集ができる。 2. 文章を論理的に読み理解できる。 3. 文章を論理的に書くことができる。 4. 自身の関心についてプレゼンテーションできる。 5. 社会問題の解決方法について他者とコミュニケーションを取りながら討議できる。		
	キャリアプラン		○		○		◎				◎		1) 自己理解を深め、将来ビジョンができるだけ具体的に描ける。 2) 将来ビジョンと現状の差異(課題)を把握し、その解決に取り組むための行動計画が策定でき、具体的な行動を始めることができる。 3) 行動する上での課題解決力や人間関係の形成について理解する。		
	短期インターンシップ		○		◎		○				◎		①事前学習により、社会人として必要な知識を理解し、社会人、職業人として相応しい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。		
	総合科学実践講義A				○								国際的感覚を涵養し、総合的な文化研究を身につけること。		
	総合科学実践講義B						○						1. 心身の健康に関する基礎知識(医学的知識を含む)を身につける。 2. 医療・産業・福祉などの多様なフィールドに関する知識を身につける。 3. 地域社会で活躍する能力の育成: それらの問題に対してどのような対応がなされているかを知る。		
	総合科学実践講義C	◎	○		○						◎		日本の経営の実態、及びグローバル化への企業の対応についての基本的な知識を修得している。		
	総合科学実践講義D										○		メディアと芸術を用いた表現と地域活性化事例の理解。		

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域の課題を的確に理解することができる。	(1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。	(2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。	(3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。	(1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。	(2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。	法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ幅広く学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。			
実践学習科目	総合科学実践講義E	◎	○	○					◎	具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造・文化構造との関連で把握することができる。 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる。	
	総合科学実践講義F			◎						Students in this course will have experience using English to describe orally and in writing their own opinions and experiences as well as commenting on the experiences and viewpoints of others. Oral presentation exercises make students more comfortable in public speaking. Students increase confidence in their foreign language ability by taking a course offered entirely in English by a non-Japanese instructor.	
	総合科学実践プロジェクトA						○	◎		地域や国内外において日本語の支援を必要とする日本語学習者の現状を知り、そこに可能な日本語による支援を考え、実践する。 日本語による支援の実践を通じて、多文化共生、異文化に対する理解を深める。	
	総合科学実践プロジェクトB			◎			○	○		サマースクールプログラムに参加することで、実践的な語学運用能力を高め、同時に国際交流プログラムの運営と実施によって、マネージメント、コーディネート、リーダーシップの能力を身に付ける。	
	総合科学実践プロジェクトC							◎	○	・自分の意見(感じた事や考えたこと)を自分の言葉で表現できる ・運営体験および観戦者調査を活かした企画をみんなで協力してプレゼンすることができる ・スポーツの社会的機能(役割)について理解することができる	
	総合科学実践プロジェクトD						○	○	◎	1.地域における「心と身体の健康問題」を知る。 2.地域における「健康社会づくり」を実践していくための基礎的知見を修得する。 3.地域における「支援の在り方」について提案できる。	
	総合科学実践プロジェクトE	○	○	○	◎		○	◎	○	1 国際交流、国際協力について基本的な知識を得る。 2 広い視野、国際的な視野を持つ。 3 行動力・積極性を身につける。 4 社会性・対人関係力を身につける。	
	総合科学実践プロジェクトF	○	○		◎		○	◎	○	1. 地域の課題を発見できる 2. 課題を解決するための政策をつくらることができる 3. 政策を提案(プレゼンテーション)できる	
	総合科学実践プロジェクトG							○	◎	地域を理解しその場や状況に相応しい作品制作展示ができる。	
	総合科学実践プロジェクトH			○			○	○		実地調査の基礎を学ぶことを通じて、自ら研究に必要な素材・視点を探してそれをもとにレポートをまとめる能力をつけるようにする。	
総合科学実践プロジェクトJ			◎				○	○	・外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 ・グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネージメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。		
コース入門講座	◎	◎	○	○			○	◎	◎	現代社会が抱える様々な問題に対して、公共政策的観点から解決策を提示できる能力を身につけることを目指す。	
マクロ経済学入門	◎	○		○					◎	目 標: 経済学の基礎を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力及び数学的能力を獲得する。 テーマ: マクロ経済学の基礎と経済数学の基礎を習得する。	
経営学 I	◎	○		○					◎	経営戦略論に関連する主要な概念や理論を習得し、それを応用しながら、実際に戦略を策定して実行するマネージャーの視点を持って経営戦略の諸問題を論理的に分析できるようになることが目標です。	

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
科目名		社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。	(1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。	(2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。	(3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。	(1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。	(2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。	法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ幅広く学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。	
科目名	憲法 I	◎	○	○		○		◎	1. 信教の自由と政教分離を理解できる 2. 経済的自由と規制の意義を理解できる 3. 社会権としての諸権利の意義を理解できる 4. 立憲主義の制度としての裁判所の意義、役割を理解できる。
	民法 I	◎	○			○		◎	1. 民法総則および物権総論に関する基本的な知識を習得すること 2. 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと 3. 民法典の全体像を理解すること
	国際関係論(国際法を含む)	◎	○	○	○			◎	1. 政治学の基本的知識を得る。 2. 国際政治学と国際法の基本的知識を得る。 3. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について基本的な知識を得る。 4. 幅広い国際的な視点から考察ができる。 5. 現実主義と理想主義の両面を備えた、バランスある発想ができる。
	地域政策論 I	◎	○		○			◎	地域政策に関する基礎的な知識を身につけることに加えて、政策を分析、政策を立案するために必要な社会科学的手法も身につける。また、具体的な地域政策にふれるようにするため、行政などの実践家にも広義をしてもらう。
	地理学の基礎 I	◎	○		○			◎	経済や情報のグローバル化が急速に進む現代において、地域のかたちやしくみはどうあるべきかが問い直されている。あらゆる経済活動は地域の資源や市場を前提に成立しており、私たちの暮らしは農業、工業、商業など産業の立地によって支えられている。そうした地域と立地のメカニズムを系統的かつ論理的に考察するのがこの授業の目的である。授業ではチューネン、ウエーバー、クリスターに代表される古典立地論を詳しく解説した上で、現代における立地論の新たな展開と応用について学ぶ。また、日本や世界の産業地域とその形成要因について説明する。
	地理学の基礎 II	◎	○		○			◎	日本および欧米地域の村落・農村空間の成立過程について時間的・空間的な展開の中で理解するとともに、「地誌学」の命題である地域的な差異の特徴について把握できるようにすること。
	まちづくり地域社会論	◎	○		○			◎	社会学や公共政策学の観点から、まちづくりに関する基礎的な知識を身につける。その際、問題解決に向けた事例の理解、改善に向けた分析手法、そこで生じる陥穽について実践に活用可能な形で学べるようにする。
コース基礎科目	公共政策学	◎	○		○		○	◎	1. 公共政策学における諸理論を説明できる。 2. 公共政策学の現代的動向と課題を説明できる。
	環境政策論 I	◎	○		○			◎	環境政策の体系的理解 環境政策の手法について説明できる。 気候変動政策について説明できる。 循環政策について説明できる。 自然保護政策について説明できる。
	行政法 I	◎	○			○		◎	1. 行政法の基本原則並びに行政行為についての法的しくみを理解し、行政法特有の法的思考力を養う。
	商法 I	◎	○			○		◎	商法 I では、株式会社制度の特徴およびその機関について講義を行う。講義全体を通して、会社法がどのように利害関係者間の私的利益を調整しているか理解するとともに、大規模公開会社における株主総会の意義、取締役会の役割、代表取締役の業務執行の在り方、取締役の対会社責任の意義および問題点、監査役・会計監査人制度の在り方といった個別の問題について考える。
	地域経済論	◎	○		○			◎	農林水産業を中心とした地域資源(農地、林野、漁場等)が歴史的に見た使われ方について説明できるとともに、グローバル経済の下での経済環境の変化について理解して、新しい利用について語れる。

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
			社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。	(1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。	(2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。	(3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して、複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。	(1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。		
科目名									
	マクロ経済学Ⅰ	◎	○	○			◎	目標：経済学の基礎理論を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力を獲得する。 テーマ：マクロ経済学の基礎を習得する。	
	ミクロ経済学Ⅰ	◎	○		○		◎	数学を用いた厳密な理論で経済理論のメカニズムを把握できる思考力をつけることを目標とする	
	財政学Ⅰ	◎	○		○		◎	財政学の基礎的な理解を得る。	
	国際経済学Ⅰ	◎	○	○			◎	第二次世界大戦までの経済史、学説史、学説内容に係わる論点を理解する。	
	会計学Ⅰ	◎	○		○		◎	企業の行った経済活動をどの様に「認識するべきか、また正しく評価できるのか」といった記録面を理解することから始まり、その結果である財務諸表上から情報の利用者が求める「情報を正しく伝えられるのか」といった報告面を理解することを目標とする。	
	憲法Ⅱ	◎	○			○	◎	1 表現の自由の意義を理解できる。 2 参政権と選挙制度の意義を理解できる 3 統治の原理を理解できる 4 統治機構論の内、議会、内閣、地方自治を理解できる	
	行政法Ⅱ	◎	○			○	◎	1. 行政行為以外の行政活動の法形式並びに行政救済法についての法的しくみを理解し、行政法特有の法的思考力をさらに深める。	
	商法Ⅱ	◎	○			○	◎	商法Ⅱでは、株式の意義、種類株式制度、新株発行による企業の資金調達、企業再編、会社設立等について講義を行います。それにより、企業金融および企業再編の分野において会社法が利害関係者間の私的利益をどのように調整しているか理解するとともに、取引所における取引客体としての株式の意義、種類株式の多様化とその問題点、第三者割当増資に対する法規制の在り方、敵対的企業買収に対する法規制、組織再編の柔軟化とその問題点等の個別問題について受講生自身に考えてもらいたいと思っています。	
	経営学Ⅱ	◎	○		○		◎	経営組織論に関連する主要な概念や理論を習得し、それを応用しながら、実際に組織を運営するマネージャーの視点を持って組織の問題を考えて分析できるようになることが目標です。	
	民法Ⅱ	◎	○			○	◎	1. 契約法および不法行為法に関する基本的な知識を取得すること 2. 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと	
	民法Ⅲ	◎	○			○	◎	1. 債権法総論および担保物権に関する基本的な知識を取得すること 2. 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと。	
	マクロ経済学Ⅱ	◎	○		○		◎	目標：経済学の基礎理論を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力を獲得する。 テーマ：マクロ経済学の基礎を習得する。	
	ミクロ経済学Ⅱ	◎	○	○			◎	初歩の微積分学の知識を援用して、経済学におけるミクロ分析手法の基礎を習得する。	
	応用経済学	◎	○	○			◎	近代経済学のミクロ的接近法を利用した環境経済学の手法を学習した後、ジョージ・ジェスコーレンの生物経済学と社会メタボリズムについて基礎的な分析手法を習得する。	
	国際経済学Ⅱ	◎	○	○			◎	第二次大戦後の国際経済の変化と、それに対応する理論内容を理解する。	

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域の課題を的確に理解することができる。	(1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。	(2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。	(3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。	(1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。	(2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。	法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の関連科目をできるだけ幅広く学習することで、総合的な視点と創造的な思考力が養成されている。			
コース応用科目	財政学Ⅱ	◎	○	○	○	○	○	○	◎	【目的】財政学の主要なトピックスについて、自ら考え、分析することができるようになるための基礎的な分析方法を講ずる。 【目標】財政学の考え方をを使って、財政に関わる問題を分析することができるようになる。	
	平和学	◎	○	○	○	○	○	○	◎	1. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について基本的な知識を得る。 2. 国際政治と国際法の基本的知識を得る。 3. 幅広い国際的な視点から考察ができる。 4. 平和で公正な世界の実現に向け、意欲と行動力を発揮することができる。	
	環境政策論Ⅱ	◎	○	○	○	○	○	○	◎	持続可能な社会に向けての環境ガバナンスのあり方を理解する。 文化システム、社会システム、経済システムと自然環境の関係を説明できる。 環境の正義について説明できる。 環境政策統合について説明できる。 エコロジーの近代化、再帰的近代について説明できる。	
	会計学Ⅱ	◎	○	○	○	○	○	○	◎	企業から提供される様々な情報を認識し、会計に関する経営情報を理解する。	
	近現代世界の成立と展開							○		特に、講義でとりあげる各国の近代化過程を、比較史的に、またグローバルな視野をもって理解すること。学習した内容を再構成して、明快な論説文によって表現できること。	
	グローバル・ヒストリー(イギリス近代史)							○		1. 歴史学による対象への基本的なアプローチ方法を理解できる。 2. 現代のグローバル社会の歴史的起源について理解し、現在の自己の立ち位置を歴史的パースペクティブを踏まえて理解できる。	
	国際協力論－応用編－	◎	○	○	○	○	○	○	◎	外国文化(異文化)の理解 現代社会や地域の課題を分析する能力の養成 国際感覚の養成 グループ・ワークの実施	
	公共政策総合演習Ⅰ	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	・国際政治に関する知識の習得と考察力の習得、プレゼンテーション、コミュニケーション、討論のスキルの習得。 ・生物経済学の基礎的な知識を取得するとともに、数理的な取り扱いを苦にせずむようになる。判りやすいプレゼンテーションができるようになる。 ・環境政治学的思考を身につけること。 ・経済学の基本的な考え方(合理性)を身につけてほしい。 ・このゼミの目的は、資本市場法制・株式会社法制に関する様々な問題の検討を通して、皆さんに法的なものの方・考え方を養ってもらうことです。それにより、皆さんが大学卒業後、社会に出て様々な問題に直面した際に、それらの問題について自ら考え対処できる能力を身につけてもらいたいと思っています。このゼミに参加される皆さんの将来の目標はそれぞれ異なると思いますが、お互い切磋琢磨しながら目標実現に向けて精進してください。担当教員も皆さんと一緒にゼミ活動を充実させたいと考えています。 ・1. 関心のある政策分野の現代的動向について説明できる。 2. 関心のある政策分野における問題の構造について説明できる。 3. 関心のある政策分野における問題の解決策について、他者とのコミュニケーションを通じて討議できる。 4. 必要な文献や情報を収集・整理し、それらを分析・解釈できる。 5. 研究結果をプレゼンテーションできる。 6. 文書を論理的に読み書きできる。
	公共政策総合演習Ⅰ										生物経済学の基礎的な知識を取得するとともに、数理的な取り扱いを苦にせずむようになる。判りやすいプレゼンテーションができるようになる。
	公共政策総合演習Ⅰ										①環境政策・環境政治学的思考を身につけること。 ②プレゼンテーション能力を身につけること ③コミュニケーション能力を身につけること ④文献調査・情報収集能力を身につけること
公共政策総合演習Ⅰ										経済学の基本的な考え方(合理性)を身につけてほしい	

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		社会科学のうち、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域の課題を的確に理解することができる。	(1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の知識を援用し、論理的に分析できる能力を身につけている。	(2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。	(3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。	(1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。	(2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。	
	公共政策総合演習Ⅰ							このゼミの目的は、資本市場法制・株式会社法制に関する様々な問題の検討を通じて、皆さんに法的なものの方・考え方を養ってもらうことです。それにより、皆さんが大学卒業後、社会に出て様々な問題に直面した際に、それらの問題について自ら考え対処できる能力を身に付けてもらいたいと思っています。このゼミに参加される皆さんの将来の目標はそれぞれ異なると思いますが、お互い切磋琢磨しながら目標実現に向けて精進してください。担当教員も皆さんと一緒にゼミ活動を充実させたいと考えています。
	公共政策総合演習Ⅰ							1. 関心のある政策分野の現代的動向について説明できる。 2. 関心のある政策分野における問題の構造について説明できる。 3. 関心のある政策分野における問題の解決策について、他者とのコミュニケーションを通じて討議できる。 4. 必要な文献や情報を収集・整理し、それらを分析・解釈できる。 5. 研究結果をプレゼンテーションできる。 6. 文書を論理的に読み書きできる。
	公共政策総合演習Ⅱ	◎	○	○	○	◎	◎	・国際政治に関する知識の習得と、考察力の習得、プレゼンテーション、コミュニケーション、討論のスキルの習得。 ・生物経済学の基礎的な知識を取得するとともに、数理的な取り扱いを苦にせずむようにする。判りやすいプレゼンテーションができるようになる。 ・環境政治学的思考を身につけること。 ・経済学の基本的な考え方(合理性)を身につける。 ・このゼミの目的は、資本市場法制・株式会社法制に関する様々な問題の検討を通じて、皆さんに法的なものの方・考え方を養ってもらうことです。それにより、皆さんが大学卒業後、社会に出て様々な問題に直面した際に、それらの問題について自ら考え対処できる能力を身に付けてもらいたいと思っています。このゼミに参加される皆さんの将来の目標はそれぞれ異なると思いますが、お互い切磋琢磨しながら目標実現に向けて精進してください。担当教員も皆さんと一緒にゼミ活動を充実させたいと考えています。 ・1. 自らの関心に基づく研究課題が設定できる。 2. 文献調査や社会調査等による各種データの収集・整理ができる。 3. 収集したデータの分析・解釈ができる。 4. 研究結果をプレゼンテーションし、それに基づくディスカッションができる。 5. 論理的な文章表現ができる。
	公共政策総合演習Ⅱ							生物経済学の基礎的な知識を取得するとともに、数理的な取り扱いを苦にせずむようにする。判りやすいプレゼンテーションができるようになる。
	公共政策総合演習Ⅱ							①環境政策・環境政治学的思考を身につけること。 ②プレゼンテーション能力を身につけること。 ③コミュニケーション能力を身につけること。 ④文献調査・情報収集能力を身につけること。
	公共政策総合演習Ⅱ							経済学の基本的な考え方(合理性)を身につける
	公共政策総合演習Ⅱ							このゼミの目的は、資本市場法制・株式会社法制に関する様々な問題の検討を通じて、皆さんに法的なものの方・考え方を養ってもらうことです。それにより、皆さんが大学卒業後、社会に出て様々な問題に直面した際に、それらの問題について自ら考え対処できる能力を身に付けてもらいたいと思っています。このゼミに参加される皆さんの将来の目標はそれぞれ異なると思いますが、お互い切磋琢磨しながら目標実現に向けて精進してください。担当教員も皆さんと一緒にゼミ活動を充実させたいと考えています。
	公共政策総合演習Ⅱ							1. 自らの関心に基づく研究課題が設定できる。 2. 文献調査や社会調査等による各種データの収集・整理ができる。 3. 収集したデータの分析・解釈ができる。 4. 研究結果をプレゼンテーションし、それに基づくディスカッションができる。 5. 論理的な文章表現ができる。
	知的財産の基礎と活用	◎	○	○	○		◎	1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 学部や大学院で実験を行う際におきたい知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動する際に役に立つ知的財産制度の内容を理解する。
	国際農業論	◎	○	○	○		◎	今日の農業問題の起源が19世紀の植民地農業開発にあることを説明でき、そこから今日のグローバル経済の下での日本農業の課題について述べるができる。

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
科目名			(1) 現代社会が直面する様々な問題に対して、法学、政治学、経済学、および経営学の4分野の基礎知識・能力を幅広く修得し、グローバル化する現代社会の諸問題や地域的課題を的確に理解することができる。	(2) 英語をはじめとする外国語運用能力を身につけている。	(3) 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、経営提言および政策提言できる技能を修得している。	(1) 高い志、豊かな人間性や協調性、高い倫理観を有し、独立した個人として主体的に行動することができる。	(2) 他者との共同作業の中で様々な社会の課題を議論し、これを解決しようとする態度を身につけている。		
	ブランド戦略論	◎	○		○		◎	1. ブランド一般の目的、機能を説明できる。 2. 食料・農業分野におけるブランド形成・管理の特徴と課題について説明できる。 3. 地域ブランド戦略の特徴と課題について説明できる。	
卒業研究	卒業研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	・卒業論文を完成させるために必要な知識を獲得すること ・一年間を通して学部で勉強した知識を文書化し、卒業論文を完成する ・テーマを設定し、卒業論文にまとめる ・卒業論文を作成できる	